

外来化学療法センター栄養指導の取り組み（第2報）

（地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 栄養科）

原田 麻子 花川 卓子 樋口 由美 中村 佳菜
片山 さくら 沢本 瑞穂 中 謙太 植木 明

要 旨

近年、外来化学療法患者が増えている。化学療法中の体重減少や栄養障害は治療継続にも影響し、患者個々の状態にあわせた栄養管理が求められるが、当院において入院に比べて外来での栄養食事指導の機会が少ない。外来化学療法センターでの栄養指導を拡充するため、多職種で連携し栄養指導の必要な患者を抽出し栄養指導介入へつなげる体制を構築した。（京市病紀 2022；42：84-88）

Key words：外来化学療法，栄養指導，多職種連携

緒 言

近年、通院しながら抗がん剤治療を受ける患者が増えており、日常生活を送りながら副作用や症状等をコントロールしていくことが課題となっている。化学療法の副作用のなかには、食事摂取量の低下を招くものも多くあり、それに伴う体重減少は患者のQOL低下や身体機能低下を招く。著しい体重減少は治療の継続や安全な抗がん剤投与にも影響する。

令和2年4月の診療報酬改定で外来化学療法中の栄養食事指導料の要件について見直しが行われ、外来化学療法センターでの栄養食事指導料の算定が可能となった¹⁾。

京都市立病院（当院）における外来がん患者への栄養指導件数は入院に比べおよそ20分の1と少ない。栄養科では、令和2年から外来化学療法センターでの栄養指導の取り組みを開始したが、対象患者の抽出方法と拡充が課題となっていた。

今回、外来化学療法通院患者において栄養指導を必要とする患者を多職種連携により抽出し、栄養食事支援につなげる体制を構築するため取り組みを行なったので報告する。

方 法

外来化学療法センターの栄養指導拡充を栄養科、薬剤科、腫瘍内科の共通の目標とし、3部署を中心に多職種連携による患者抽出方法を検討した。また、職種間の連携方法についてプロセスフローチャート（PFC）を作成し、栄養業務委員会、薬剤業務委員会、化学療法レジメン委員会で承認を得て、院内へ周知し運用を開始した。

結 果

患者抽出方法については、従来から実施していた管理栄養士が行う新規またはレジメン変更のある外来化学療法患者のカルテ抽出に加えて、薬剤師面談での持続する食欲不振のある患者の抽出（図1）、ドクタークラークとの連携により体重減少のある患者の抽出（図2）、以上の

複数のルートから栄養指導介入へつなげる体制を作った。

また外来化学療法を実施する70歳以上の高齢者を対象に高齢者機能評価ツール（Geriatric-8 screening tool：G8スコア²⁾の結果を用いて高齢者多職種カンファレンスにおいて栄養食事支援の介入の必要性についても検討することとした。

栄養指導オーダーの発行はドクタークラークまたは管理栄養士による代行オーダーと医師による委譲者承認とし、栄養指導実施日は外来化学療法センターの次回予約日に合わせて設定した。栄養指導当日は、外来化学療法センターで抗がん剤投与中に管理栄養士が訪問して実施することとした。

患者へは事前に栄養食事相談の案内と食事記録用紙を文書にて配布し、栄養指導当日に持参していただくよう依頼した。案内用紙には、次回化学療法中に栄養相談のために管理栄養士が訪問すること、治療を安全に継続するために栄養や体力を維持することが大切であるということ、日頃の食事での不安や困りごとがある場合は知らせていただきたいことを記載した（図3）。食事記録用紙には家庭での食事内容や、食事に関連する症状の有無、食事に関する困りごとを記載する欄をもうけた（図4）。

令和3年11月中旬よりドクタークラークとの連携と多職種カンファレンスを開始し、令和4年1月より薬剤師との連携を開始した。

考 察

入院に比べて外来では管理栄養士による栄養食事指導の機会は少なく、外来通院患者においても栄養指導を受ける体制を整えることは重要である。抗がん剤の副作用は発現時期が異なり、栄養食事管理の対策も症状ごとに異なる。また高齢者においては身体的・認知的・社会的問題を抱えている患者も多い。多職種で情報を共有し連携することにより、より必要度の高い患者に適したタイミングでの介入が可能となると考える。

結 語

外来化学療法患者の栄養食事支援体制をつくり、栄養指導介入の取り組みを開始した。この取り組みにより、患者の栄養状態や QOL の維持、患者支援の向上、治療完遂への貢献、診療報酬算定の向上につなげていきたい。

引用文献

- 1) 厚生労働省ホームページ：令和4年度診療報酬改定について [internet] https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00037.html [accessed.2022.5.30]
- 2) 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG 高齢者研究委員会ホームページ，推奨高齢者機能評価ツール [internet] <http://www.jcog.jp/basic/org/committee/gsc.html> [accessed.2022.5.30]

外来化学療法センター栄養指導予約PFC(2Aブロック以外の患者用・薬剤師版)

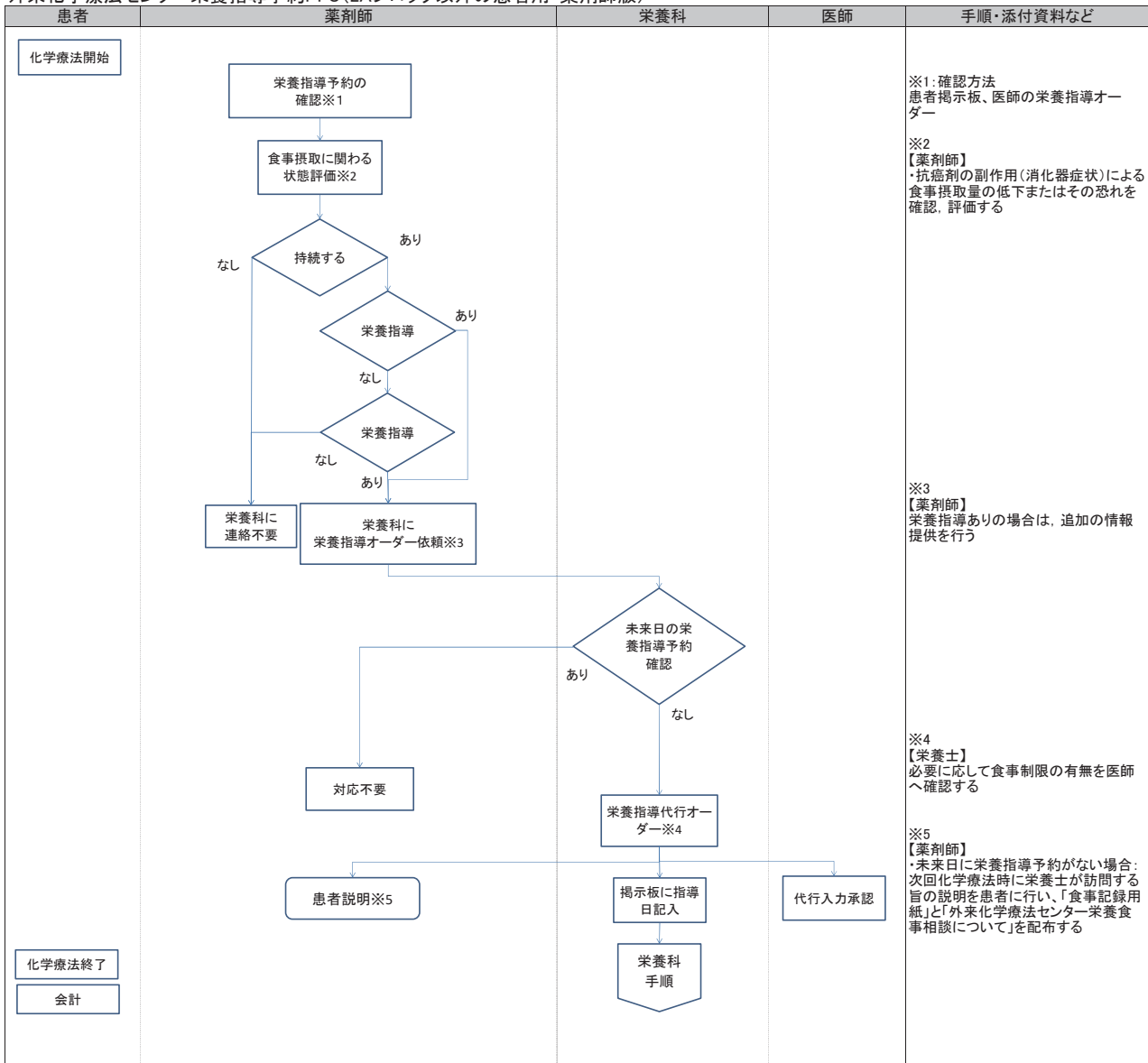


図 1

外来化学療法センター栄養指導予約PFC(2Aブロック)

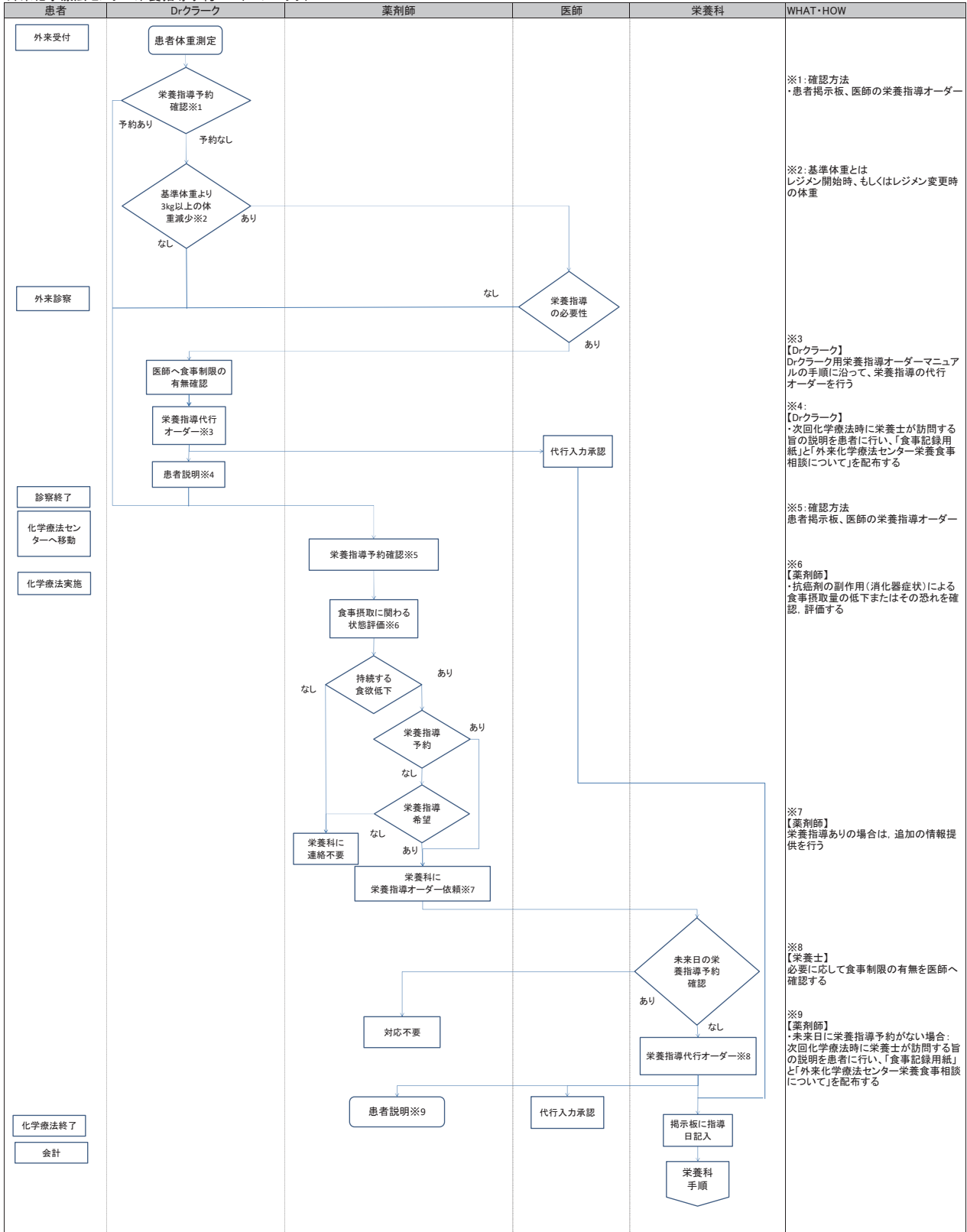


図2

患者さんへの栄養食事相談の案内

外来化学療法センター 栄養食事相談のお知らせ

当院では、外来化学療法を安心して継続いただけるように、体重減少や食欲不振などがある患者さんを対象に主治医の指示のもと、管理栄養士による栄養食事相談を実施しています。

目的 外来化学療法センターにて化学療法中に、ベッドサイドに管理栄養士が訪問していただき、患者さんご自身の食生活と、治療との関係についてお話しさせていただきます。治療を安全に継続するためには、栄養状態を管理し、体重や体力を維持することが大切です。日頃の食事の不安や困りごとなどがあれば、遠慮なくお知らせ下さい。

日頃のご家庭での食事内容をお話しいただくことで、患者さんご自身のより確かな相談ができる場合があります。可能であれば、一緒に相談する「食事記録用紙」に数日分（1日～3日）のご家庭での食事を記録いただき、医師の化学療法目にご持参下さい。管理栄養士が内容を確認の上、ご相談させていただきます。（※記録が困難であれば、管理栄養士の訪問時にご家庭での食事内容を記載して下さい）

なお、本館東館の予約係に「栄養食事相談」で「予約アプック受付」お申し込み下さい。と表示されますが、管理栄養士の化学療法室に訪問しますので、「予約アプック」の活動は不要です。

化学療法中に管理栄養士が訪問するので、気軽に相談して下さい。

「食欲がないけど、食べやすいものがない」「少量で栄養が足りるものが食べたい」などの困りごとがあればありますか？

次回、化学療法中に食事相談のために栄養士が訪問させていただきますこと

治療を安全に継続するために栄養や体力を維持することが大切

日頃の食事の不安や困りごとがあれば知らせてください

図 3

患者さんへの案内(食事記録用紙)

食事記録用紙

お名前()

※食事記録の依頼に基いて記載していただきますので、訂正し上った食事内容は可能な範囲にお書き下さい。

1日目	朝食		昼食		夕食	
	時間	内容	時間	内容	時間	内容
主食						
ご飯・パン・麺						
主菜						
(肉・魚・豆腐)						
副菜、汁物						
(漬物等)						
デザート、乳類、飲料、お菓子、その他						

食事に関する以下の症状のうち、当てはまるものがあれば○を付けて下さい。

食欲がない()、吐き気がする()、味がおいしく感じる()、食事のにおいが気になる()

その他、食事に関する困りごとがあれば、自由に記入して下さい。

()

※この用紙は次回の化学療法時にご持参の上、訪問した栄養士にお渡し下さい。

家庭での食事の様子、食事内容の記載してもらおう

食事に関連する症状の問診

- ・ 食欲がない
- ・ 吐き気がする
- ・ 味がおいしく感じる
- ・ 食事のにおいが気になる

食事に関する困りごと (フリー記載)

図 4

Abstract

Ongoing Nutritional Guidance in the Outpatient Chemotherapy Room Part 2

Asako Harada, Takane Hanakawa, Yumi Higuchi, Kana Nakamura,
Sakura Katayama, Mizuho Sawamoto, Kenta Naka and Akira Ueki

Department of Nutrition, Kyoto City Hospital

Patients on chemotherapy at the outpatient clinic are on the increase. Management of nutrition according to the condition of each patient is important since weight loss and malnutrition during chemotherapy affect the continuation of therapy. However, as compared to the inpatients, the outpatients have less opportunity to receive nutritional guidance. In order to provide better nutritional guidance at the outpatient chemotherapy center, we developed a system to support nutritional intervention by extracting the patients requiring nutritional guidance with the cooperation of a multidisciplinary team.

(J Kyoto City Hosp 2022; 42:84-88)

Key words: Outpatient chemotherapy, Nutritional guidance, Multidisciplinary cooperation